

全国医学部長病院長会議
定例記者会見レジメ

26年度診療報酬改定の論点整理（案）

1. 機能分化としての大学病院の外来機能

現状：大学病院の外来は、国・公・私立ともに減少傾向にある
紹介率は非常に高いが、逆紹介率が低い傾向にある

論点：外来患者数はどの病院も減少しつつある
ベッド当たりの比率はおおむね2倍程度である
外来機能は特化していくが、救急部門はどうするのか
紹介率の計算方法に問題ある（自分で来る救急外来の患者）
外来の収入は、全収入の平均30%前後ある

2. 7：1看護基準の見直し

現状：現在の看護必要度では十分反映されていない。
新たな評価基準を設けるべき

論点：評価を看護師だけの人数ではなく、薬剤師・栄養士・ME等を入れる

3. DPC/PDPS 改定

現状：暫定招請係数に、病院間で格差がある
論点：機能評価係数Ⅱのみで評価しきれるか

4. 大学病院における精神科の評価

現状：一般病棟の3分の1から4分の1の評価
精神科医が減少している

論点：総合病院の精神科の評価が必要では
評価は、外来だけでなく病棟の有無にしては

5. 薬剤師の病棟配置の評価

現状：現在薬剤師の評価は業務20時間のみ
論点：薬剤師の病棟配置を評価（40時間）

6. 後発医薬品の使用促進

現状：大学病院の後発品使用割合は低い
論点：さらなる使用拡大を図る手法を講じる必要があるのでは